

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K03143

研究課題名（和文）大学生アスリートの依存性からみた自立と社会的適応

研究課題名（英文）Research into the Psychological Dependence of Japanese University Athletes for Developing their Independence and Social Adaptability

研究代表者

小川 千里 (OGAWA, Olivia C.)

琉球大学・グローバル教育支援機構・研究員

研究者番号：90340760

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、才能教育下にある大学生アスリートの心理的依存性（こころの発達
の幼さ）、およびその自立と社会的適応に対する支援について検討することであった。調査の結果に基づいて、
大学生アスリートの依存のメカニズムと支援方法の開発・および成果の公表を行ってきた。主たる成果として
（a）高度な才能教育を受けてきた者たちが家族らに対してより依存적であり、さらには（b）家族的關係にある
者（指導者ら）との間の依存關係は、家族（原家族である親）とのそれよりも長期化する様相が明らかになっ
た。分析を通じて、（c）大学生アスリートの「依存四類型」（小川、2015）それぞれに応じた支援のあり方が
示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国で高度な才能教育を受けられるアスリートは、すなわち高戦績を残していると言っても過言ではない。ま
た、才能教育に従事する指導者は、多くがそこで育った元大学生アスリートである。本研究の結果は、スポーツ
才能教育がスポーツでの高い戦績を達成することに寄与する一方で、この時期の人のこころの成長や自立に寄与
しているとは言い難いという、スポーツ才能教育と産業にとって、速やかかつ真摯に取り組むべき課題を示すこ
とになった。科学的検討を通じ、学術的・実践的に類を見ない結果に辿り着いたことは、研究協力者、国民の皆
様、科学研究費のご支援によるものであるとともに、新たな社会的使命を受けたと身の引き締まる思いである。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to explore the psychological dependency among Japanese
university athletes in elite sports education, and to identify ways how to support their
independence and social adaptability during their retirement transition. Both qualitative and
quantitative research methods were conducted. Our conclusions were as follows: (a) athletes with
recommendations for sports were more dependent, (b) coaches tended to be dependent on athletes
continuously, and (c) the support required by athletes differed based on the four categories of
their psychological dependency stated in Ogawa's previous research.

研究分野：臨床心理学

キーワード：大学生アスリート 依存 依存四類型 スポーツ臨床 大学生アスリート版家族ら依存性測定尺度 カ
ウンセリング 自立 家族・家族的關係

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等につ
いては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際大会等で活躍する大学生アスリートの多くは、幼少期からスポーツの才能教育を受けている。われわれは、彼らの中に体重の激減や度重なる怪我、ギャンブル依存等を訴える者があることをしばしば目にしていた。先行研究(小川、2015)において、これらの現象の背後に家族・家族的(監督、コーチ等の指導者)関係への心理的依存があること、そして依存の様相に4つの類型がある(依存四類型)ことについては、8人のアスリートの事例に基づき示されていた。ここでは依存がこの時期の自己の発達への力を育む妨げとなり、自立が進まない様子が浮き彫りになっていた。当時、研究代表者の十余年にわたるスポーツ才能教育下のアスリートに対する心理臨床の実践の中で、この研究結果は大学生アスリートのこころの発達の状態についてほぼ説明しているという認識があった。しかし、家族らへの依存と自己の発達のメカニズム、および支援の方略は学術的にも実践的にも詳らかにされていると十分には言えなかった。研究開始当初においても才能教育下でも大学卒業を機に競技引退し、社会人になろうとする者は多く、自立は大学生アスリートにとって最優先課題であった。われわれは、これらの問題を解明して彼らの自立を支援することが急務であると考え、本研究に着手するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、依存と自立の分岐点にある才能教育下にある大学生アスリートの心理的依存性(こころの発達の幼さ)、およびその自立と社会的適応に対する支援について、発達臨床心理学の観点から検討することであった。

3. 研究の方法

(A)定量的調査(才能教育の経験を有する者と一般運動部員の比較調査)、(B)定性的調査(新規調査および卒業生へ縦断調査)によりデータを収集し、分析を通じてその心理的依存と自立のメカニズムを解明し、(C)依存の状態に応じた大学生アスリートの支援の方法の開発と公表を行った。

4. 研究成果

すべての研究成果は、科研費成果公表ウェブサイト(科学研究費助成事業/18K03143の成果公表; URL: <https://ok.athletes-counseling.com/>)において公表している。

以下では、文献研究で行った成果公表、調査の内容ごとの主要な成果を要約する。

調査に先立ち関連する文献の検討を行い、調査に備えた。成果は、学術論文3件、学会発表1件(国内1件)で公表できた。

(A)定量的調査は2度にわたり行われ、研究成果は学術論文1件、学会発表4件(国際1件、国内3件)で公表を行った。調査対象者は、4年制体育系大学に所属する体育会系運動部員であった。一度目の調査は、大学生アスリートを対象とした家族・家族的関係への依存性を測定する尺度の作成、および依存性と他の心理的特性との関係性を検討することを目的に、2018年12月から2019年1月にかけて、311名(男性202名、女性108名、答えたくない1名、平均年齢19.59歳、SD=.76)を対象に行われた。調査の内容は、対象者の属性、大学生アスリート版依存性測定尺度の原案54項目、対人依存性尺度(高橋、1970)、同一性地位判別尺度(加藤、1983)であった。分析の結果、信頼性と妥当性のある4因子28項目の大学生アスリート版家族ら関係依存性測定尺度(Family Relationship Dependency Scale for University Athletes: FRDSUA)が開発され、他の属性との関連性について、高度な才能教育を受けてきた者たちが家族らに対してより依存的事であることが示された(煙山・小川、2021;教育カウンセリング研究)。

二度目の調査は、大学生アスリートの親や指導者(家族・家族的関係にある者)への依存性およびそれが適応感に与える影響について検討することを目的に、2019年11月から12月にかけて、301名(男性189名、女性112名、平均年齢19.42歳、SD=.87)を対象に行われた。調査の内容は、対象者の属性のほか、大学生アスリート版家族ら関係性依存性測定尺度(煙山・小川、2021)、青年用適応感尺度(大久保、2005)等であった。分析の結果、高度な才能教育を受けてきた者たちについて、推薦を通じて入学しているにもかかわらず、受け容れられているという気

持ちがもてていないこと、依存の類型によっても適応感の内実は異なっており、それぞれに適した支援の方法が望まれることが示された(煙山・小川、2021;日本健康心理学会第34回大会)。

(B) 定性的調査は、2018年10月から2019年7月にわたり行われ、研究成果は学術論文2件、学会発表4件(国際3件、国内1件)で公表された。小川(2013)で調査の対象となったアスリート8名について縦断調査を呼びかけたうち、6名の協力を得られた。また、新たに7名の大学生アスリートが協力した。特に縦断調査を通じて、家族的関係にある者(指導者ら)との間の依存関係は、家族(原家族である親)とのそれよりも長期化する様相が明らかになった。また、データ分析の結果に加えて調査プロセスにおける対象者の様子からも、依存の類型(小川、2015)ごとの支援の望ましい在り方も示された(Ogawa、2021; ICP2020+)。

(C) 開発された支援方法

(A) 定量的調査および(B) 定性的調査の結果は、研究組織において継続的かつ入念に検討された。また、主要な結果については、シンポジウム「才能教育下にあるアスリートの心理的依存と自立に関する臨床的支援(1) 大学生アスリートらへの調査に基づく現状査定」(第40回日本心理臨床学会)で話題提供され、臨床心理学領域における心理査定の専門家、大学およびプロ・スポーツ業界での才能教育に詳しい専門家も交えて討議され、その様子は多くの心理援助職にも共有された。

さらに、本研究の成果が実践的に活かされるよう、支援を必要とするアスリートをはじめとして、広く一般向けに「科研費成果公表ウェブサイト」を作成して公表することとした。ここでやっている重要な実践的支援として以下を挙げ、現時点での成果報告全体の結びとしたい。

- (1) 動画による問題提議：本研究で明らかになったアスリートの心理特性に基づいて、彼らが困っている問題について、短時間で視覚的かつ聴覚的に呼びかける
- (2) 「依存四類型」(小川、2015)の解説：英語版を含め、類型ごとの支援の在り方を周知する
- (3) 問い合わせサイトの設置：対応を必要とする人々が支援を希望する場合の導線を設置する

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Olivia C. OGAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 Characteristics of Coaches' Behaviour Towards an Elite Japanese University Athlete Displaying Psychosomatic Movement Disorders: A Longitudinal Case Study in Elite Sports Education	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th International Academic Conference on Teaching, Learning and Education	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 煙山千尋・小川千里	4. 巻 11
2. 論文標題 大学生アスリートの家族・家族の関係にある者への依存性に関する研究 心理的依存性尺度の開発及びスポーツ推薦入学経験の有無による依存性の差異の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Olivia C. OGAWA	4. 巻 -
2. 論文標題 Longitudinal Support for the Psychological Development of an Elite Japanese Athlete with Severe Injuries -A Case Study from the Psychodynamic Perspective-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 the 15th International Technology, Education, and Development Conference	6. 最初と最後の頁 3794-3801
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小川千里	4. 巻 5
2. 論文標題 才能教育下にあるアスリートの心理的発達を日本の学校現場で支援する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻紀要	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小川千里	4. 巻 4
2. 論文標題 アディクション臨床からみた才能教育下にあるアスリートと 家族・家族的関係における依存性 疑似親としての教員・指導者役割への提言	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球大学教育学研究科高度教職実践専攻紀要	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川千里	4. 巻 3
2. 論文標題 教育現場での教育者と才能教育下にあるアスリートの多重関係 スポーツ臨床の適切な関係性の構築に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻紀要	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Olivia C. OGAWA
2. 発表標題 Characteristics of Coaches' Behaviour Towards an Elite Japanese University Athlete Displaying Psychosomatic Movement Disorders: A Longitudinal Case Study in Elite Sports Education
3. 学会等名 The 4th International Academic Conference on Teaching, Learning and Education (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川千里・煙山千尋・小川俊樹・中岡孝剛・重野弘三郎
2. 発表標題 才能教育下にあるアスリートの心理的依存と自立に関する臨床的支援 (1) - 大学生アスリートらへの調査に基づく現状査定 -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第40回大会 自主シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 煙山千尋・小川千里
2. 発表標題 スポーツ推薦入学経験を有する大学生アスリートの 家族・家族的関係にある者への依存性が適応感に与える影響
3. 学会等名 日本健康心理学会第34回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OGAWA, O.C.
2. 発表標題 Longitudinal Research on the Psychological Development of Elite Japanese Athletes during Retirement
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kemuriyama, C. & OGAWA, O.C.
2. 発表標題 Influences of Psychological Dependency on Self-control According to Recommendation for Sports
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OGAWA, O.C.
2. 発表標題 Longitudinal Support for the Psychological Development of an Elite Japanese Athlete with Severe Injuries -A Case Study from the Psychodynamic Perspective-
3. 学会等名 The 15th International Technology, Education, and Development Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 煙山千尋・小川千里
2. 発表標題 スポーツ推薦入学経験の有無による大学生アスリートの家族・家族的関係にある者への依存性の違い
3. 学会等名 日本健康心理学会第33回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川千里
2. 発表標題 才能教育下にあるアスリートの依存と自立に関する縦断研究(1) 大学時代に心因性動作失調で悩んだアスリートの内的世界の変容
3. 学会等名 日本カウンセリング学会第52回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 煙山千尋・小川千里
2. 発表標題 大学生アスリート版依存性測定尺度の作成
3. 学会等名 日本健康心理学会第32回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川千里
2. 発表標題 教育現場における教育者と才能教育下のアスリートとの多重関係 - 心理援助や研究を行う際の適切な倫理的関係性の構築 -
3. 学会等名 日本教育カウンセリング学会第16回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>○ 大学生アスリートの依存性からみた自立と社会的適応 科学研究費助成事業（18K03143）の成果公表 アスリートのこころとキャリアのサポートグループ https://ok.athletes-counseling.com/</p> <p>○ こころに闇を抱えるトップアスリートの自立を支える （臨床心理学 トップアスリート） https://www.miraibook-research.net/theme/12843/ Olivia C. OGAWA PhD https://olivia-ogawa.jimdosite.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	煙山 千尋 (Kemuriyama Chihiro) (10615553)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授 (33704)	
研究分担者	勝谷 紀子 (Katsuya Noriko) (90598658)	玉川大学・教育学部・非常勤講師 (32639)	削除（2019年1月10日）

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------